

57 日本最初のベルリン大学医学部卒業生・佐藤進について

酒井 シヅ¹⁾, ヴォルフガング・ミヒェル²⁾¹⁾順天堂大学医学部医史学, ²⁾九州大学

佐藤進(1845-1921)は順天堂(順天堂大学)の3代目の堂主である。進は茨城県常陸大田の醸造家高和家に生まれ、安政6年(1853)に佐倉の順天堂に入門し、慶応3年(1867)に佐藤尚中の養子となり、明治2年(1869)にプロシアに留学した。進は明治2年(1869)に外務官(外務省)から旅券第一号の交付をうけてプロシアに渡るが、ベルリン大学に到着するまでの船中での生活やヨーロッパに到着直後までのことは、進の著作集『餐霞録』の中の「渡洋の記」に詳しい。

進が1869年ベルリンに着いたとき、自分が最初のプロシア留学生だと思っていたところが、現地に山口の青木周蔵と土佐の萩原三圭が滞在していたので驚かされた。青木周蔵は慶応4年(1868)に木戸孝允の推挙で長州藩からプロシア留学の許可を得て、萩原三圭は岩崎弥太郎の世話で土佐藩の留学許可を得て、ともに長崎から旅立ち、1868年にドイツに入国していた。なお、それ以前にドイツに医学留学した日本人に赤星研造と馬島(小松)済治がいる。二人とも藩からの留学生で、ハイデルベルグ大学に学んだ。

ベルリン大学の学籍簿によると、1870年、進はベルリン大学医学部に入学し、1874年8月14日に学位を得て、アジア人最初のベルリン大学医学士となった。学籍簿には進の名前の次に萩原三圭の名前がある。三圭は進と同時に入学したが、三圭は明治7年(1874)1月にベルリン大学を休学している。このとき三圭は、長与専齋の依頼により東京大学医学部のお雇いドイツ人解剖学教師 Wilhelm Doenitz を連れて帰国したからであった。三圭は1884年11月に再入学して、1886年に学位を取得している。

佐藤進が授与された学士号の原簿がベルリン大学にあり、今回、学士号のコピーを入手できた。学位記はドイツ帝国のウィルヘルムの名の下に出されたものである。

佐藤進は進の生涯ならびにドイツ留学については、順天堂史(上)に詳しく述べられているが、今回、新たにわかったことは、学位審査を受ける前に口頭試問が行われたことなどである。

学位試験の前期試験は2学年の1872年7月27日に行われた。結果は口答、筆記ともに優であった。最終博士論文審査が1874年7月24日に行われたが、そのとき進を含む4名の受験者は、外科医 Bernhard Rudolf Conrad von Langenbeck (1810-887)、病理学者 Rudolf Ludwig Karl Virchow (1821-1902)、実験病理学者 Friedrich Theodor von Frerichs (1819-1885)、生理学者 Emil Heinrich Du Bois-Reymond (1818-1896)、眼科学者 Richard Liebreich (1830-1917)、外科医長 Heinlich Adolf von Bardeleben (1819-1895)、学長で数学者 Karl Ernst Theoder Schweigger (1830-1905)の試問を受けた。進の試験結果が当時の新聞に報道された。進は卓越したドイツ語で口頭試問を受け、成績は優で合格。Bardeleben 医長にラテン語で博士号授与を申請した。それに対して Schweigger 学長は医師になるための宣誓を求めた。進はヒポクラテスの誓詞を行った。

ドイツに留学中の進は、家族に対してベルリン大学医学部の在学中に行われた試験のこと、学位授与式のこと、ならびにドイツ留学中の進が岳父尚中らに当てた書簡が残っている。それを併せて紹介して進のベルリン滞在中の生活について報告する。

進は明治2年に私費で留学したが、明治3年(1870)に文部省の官費留学生制度が実施されたとき、私費から官費留学生に切り替えられた。